

平成 19 年 1 月 31 日

各 位

会 社 名 全 日 本 空 輸 株 式 会 社
代 表 者 名 代表取締役社長 山元 峯生
(コード番号 9202 東証・大証各第 1 部)
問 合 せ 先 総 務 部 長 久 松 完
(TEL . 03-6735-1001)

通期業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績等の動向を踏まえて、平成 18 年 10 月 31 日の平成 19 年 3 月期中間決算発表時に公表した平成 19 年 3 月期の通期業績予想を、下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正

①平成 19 年 3 月期 連結業績予想 (平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日)
(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	1,450,000	76,000	47,500	27,000
今回修正予想 (B)	1,480,000	89,000	59,000	28,000
増減額 (B－A)	30,000	13,000	11,500	1,000
増減率 (%)	2.1	17.1	24.2	3.7
前期 (平成 18 年 3 月期) 実績	1,368,792	88,802	66,755	26,722

②平成 19 年 3 月期 個別業績予想 (平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日)
(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	1,260,000	62,000	37,500	22,500
今回修正予想 (B)	1,290,000	74,000	44,000	19,000
増減額 (B－A)	30,000	12,000	6,500	△3,500
増減率 (%)	2.4	19.4	17.3	△15.6
前期 (平成 18 年 3 月期) 実績	1,171,088	69,587	50,813	28,137

2. 修正の理由

国内線旅客事業については、競争力強化に向けた各種施策の効果が個人需要を中心に顕著にあらわれており、今後も景気回復基調の持続が期待される中で、国内線旅客収入は予想を上回る見込みです。

国際線旅客事業については、欧州線や北米線を中心に旺盛なビジネス需要が着実に搭乗に結びついており、観光需要も中国線、アジア線など極めて好調なことから、国際線旅客収入は予想を上回る見込みです。

以上の国内線並びに国際線旅客収入の動向から、当期につきましては航空運送事業を中心に予想を上回る売上高を確保できる見通しです。

原油価格については、ピーク時に比べれば下落しているものの引き続き高水準で推移しており、第4四半期においても燃油費の増加は避けられない状況にあります。当期については、収入の増加で収支への影響を吸収し、予想を上回る営業費用を確保できる見通しです。

また、昨年1月に発表した中期経営戦略に則り航空機の更新を進めておりますが、この計画を更に加速させ、競争力と収益力の強化を図っていきたいと考えております。現在、関係各位と協議中であり、協議が整い次第発表いたしますが、新たな機材更新に伴い100億円程度の特別損失が見込まれることから、今回の業績予想に反映させております。

以上の様な状況から、平成19年3月期の連結および個別の通期業績予想を修正いたしました。

(注) 上記の予想は本資料発表日現在において入手可能な情報および将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。実際の業績は、今後の様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

以 上